

講義名	19～ドイツ語 /15～ドイツ語入門		
担当教員	海老原 由美子		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			

<p>主題と概要</p> <p>ドイツ語を学ぶことはドイツを知ることです。ドイツってどんな国？ドイツってどんなことを考えてる？ドイツ語を学びながら、それを感じ取ったり、推測したりしてみましょう。クラスメートには「Hallo」目上の人には「Guten Tag!」と挨拶することからスタート。相手に話しかける時、この区別があることを意識し続ける必要があります。ドイツに留学し、Oliverの家にホームステイすることになったSekoに自分を薦めさせて、自己紹介したり、家族や友人を紹介したり、欲しい物や必要な物を言ってみましょう。町へ出て、様々な商店、銀行、郵便局へ行くにはどう表現したらいい？実際に使える身近な表現を学んだ後に、文章の規則性に基づき、このプロセスを大事にして文法を学びます。まずは表現を学び書き、声に出して体験学習し、文法へ、すべて、ペアがグループワークとなります。</p>
--

<p>到達目標</p> <p>自己紹介や他者の紹介は、様々な動詞をトレーニングすることで、名前、出身、住まいの場所、職業、年齢、趣味、好きな飲み物と言えるようになります。その際、数字やアルファベットの発音は必須です。中間テストを経て、身の周りの事物、商店や施設の名詞をトレーニングすることで、ドイツ語の大きな特徴の一つである名詞の性と数詞の活用がわかるようになります。次に助動詞を学びます。「したい」「しなければならぬ」「できる」など、表現の幅が広がります。英語にも助動詞があるので、学びやすさには思いますが、英語とは全く語感が異なります。実生活における慣用表現とともに助動詞をマスターできます。繰り返し音声を聞き、ペアワーク、グループワークで会話し、発表し、より多く発音する機会を持つことで、しっかりした発音が身につきます。</p>
<p>提出課題</p> <p>毎回の授業の復習として、教科書に添付されたワークシートはもちろん、教科書の内容を補うワークシートの提出が課題となります。週に一度の授業ですので、この課題提出は評価の重要なポイントとなります。</p>

<p>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</p> <p>提出物はメールに添付して提出していただきます。添削しての返却はできませんが、コメントとともに受け取りの返信をします。一週間後に、提出を締め切り、模範解答を送信します。自分はどこが分かっていないのか、コメントとともに自己チェックをお願いします。このチェックは必須です。チェックを行うことで、先に進んでいくのです。</p>
--

<p>評価の基準</p> <p>平常点（提出物 - 30%） 30% 筆記試験（中間小テスト - 20%、期末小テスト - 20%） 40% 発音チェック（中間 - 15%、期末 - 15%） 30%</p> <p>中間＆期末、いずれも、発音チェックと筆記テストを行います。授業を録音したmp3を配信、また授業で使用したパワーポイントを配信しますので、オンライン上で発音チェックを行ってください。日頃から発音していないと、会話はできないものです。また、Teams内での課題確認を用いて筆記テストを行います。なお、テストとは、学んだ表現・語彙の成果を問うものであることを認識してください。</p>
--

<p>履修にあたっての注意・助言他</p> <p>教科書（ワークブック付き）は必ず、早め購入してください。大学で売り切れの場合には、出版社である三修社での購入がお勧めです。QRコードから音声ダウンロードできます。（URLからはしないでください）</p> <p>https://www.sanshusha.co.jp/text/isbn/9784384123036/</p> <p>アマゾンでの購入はお勧めできません。なぜなら、この教科書は20年以上もの間、時代に即した表現を取り入れるために、繰り返し改訂を重ねて来たため、オンライン上に複数の同名の教科書が存在しているからです。過去にも誤って過去の教科書を購入してしまつた学生の方が複数いました。なお、出版社とアマゾンでの購入額は同等です。</p>
--

<p>教科書</p> <p>.自己表現のためのドイツ語1<プラス>.</p> <p>板山眞由美 堀路ウルズラ 本河裕子 吉満たか子 三修社 \2600 978-4-384-12303-6</p>
--

<p>プリント資料及び参考文献</p> <p><推薦辞書・サイト> アロン独和辞典 同社 / 辞書サイト glosbe</p> <p>その他、ネット上には、様々な辞書サイトがあります。積極的に、スマートフォンやタブレットを用いて、意味を調べてください。ただし、表現に関しては、教科書の表現が最もドイツ人が普通に使う表現であり、それを学ぶことが何よりも優先されます。なお、音読の単語リストを配信します。</p>

<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> L1 ドイツへ 挨拶&自己紹介、機内での会話・好きな飲み物・苦みな飲み物 L1 ドイツへ 私の職業は学生です。あなたは？(Sieの関係-距離を置いた関係) L2 ホストファミリーで オリヴァーが空港で聖子を迎える。「きょうの調子はどう？」 L2 ホストファミリーで オリバーと互いの家族を紹介しあう(duの関係-親しい関係) L2 ホストファミリーで 数字や、趣味について学び、表現を広げる。 L3 新しい環境 ホストファミリーの聖子の部屋にあるものやないもの、名詞の性を学ぶ。 L3 新しい環境 聖子がオリヴァーに尋ねる。「郵便局は近くにある？」「郵便局に行くの。」様々な店・施設とそこへいくための表現を学ぶ。 中間テスト 筆記と発音チェック L4 勉強と余暇 助動詞を学び、「しなければならぬこと」と「したいこと」を表現する。 L4 勉強と余暇 助動詞を学び、「してはいけないこと」と「してもいいこと」を表現する。 L5 聖子の一週間 曜日を学び、一週間の予定を言えるようになる L5 聖子の一週間 「この水着どう思う？」人の意見について尋ねる。自分の意見を言う。 L6 待ち合わせ 電話で会話。「どこで待ち合わせる？」様々な待ち合わせ場所を学び、前置詞を使う。 L6 待ち合わせ 電話で活動を計画し、持ち物（複数形で）の待ち合わせをする。 まとめと期末テストの準備
--

<p>授業形態（アクティブ・ラーニング）</p> <p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>キ：その他（A/L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）</p>	<p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>カ：実験、フィールドワーク</p>
--	---

<p>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>復習を重視します。復習プリントを必ず課題とします。それが次回の授業への理解に繋がります。音声をダウンロードして繰り返し聞く、これだけでもかなりドイツ語は上達します。授業でトレーニングした会話文を音読する、新しく学んだ単語を書き出すなど、いろいろな方法を取り入れてみましょう。毎回1時間程度の復習をよろしくお願いします。</p>
--

<p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</p> <p>ドイツは経済的にも政治的にもEU・ヨーロッパの最も重要な国の一つです。ドイツ語を学び、EU・ヨーロッパの理解を深め、国際的な視点をも身につけます。ドイツ語入門&ドイツ語 は、その入り口、土台作りです。この基礎をしっかりと築き、ドイツ語初級&ドイツ語 と継続して学ぶことで、初級ドイツ語は終了し、日本のドイツ語検定も受験可能となり、また、E6基準のドイツ語検定への受験も視野に入ってきます。</p>
--

<p>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大状況により、Teamsを用いて双方リアルタイムオンライン授業へとシフトします。Teamsにもブレイクアウトセッションがあり、対面授業と同様にペアワーク、グループワークが可能です。会話する状況をより多く作っていきたいと思います。また、通字練習や音読効果により対面授業に参加出来なかった方のために、また復習のために、授業を録音したmp3の配信、授業中使用したパワーポイントの配信をします。発音のトレーニングはいずれの場合も、繰り返し行い、発音テストに備えてください。また、授業開始後に、Teamsのクラス編成を行いますので、クラスノートブックへの承認申請を忘れず行ってください。</p>

<p>実務経験の有無及び活用</p>

<p>備考</p> <p>授業には継続して出席することを心がけてください。毎回出席し、発音し、表現し、文法を学ぶ。日々の積み重ねによってしか、語学の上達はありません。受講生の理解度に応じて、授業の進度を調整したり、授業や課題の内容を変更する場合があります。全体として、発音を重視しますので、授業中の発音練習・会話練習に積極的に参加してください。</p>
